

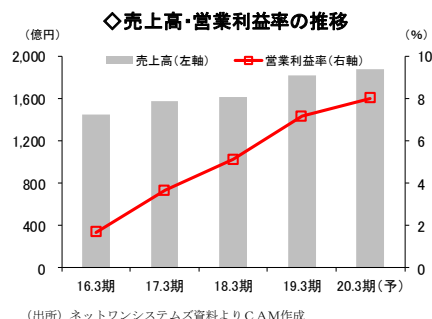
企業ニュース ネットワンシステムズ

(東証1部 : 7518) <https://www.netone.co.jp/>

作成者: 村上大志

ネットワーク構築に強い独立系企業

1988年、創業。ルータ・スイッチなどの機器販売から事業を開始し、現在はネットワークシステムとコンピューターシステムを統合したICT（情報通信技術）基盤全体を支援する。特定の機器メーカーに属さず国内外の製品特徴を見極め、自由に組み合わせることで、顧客ニーズに合わせた最適な提案ができるマルチベンダ企業。また、国内最大級の検証施設で、システムの検証や開発したサービス・製品の自社活用を行っている。トラブル対応や利活用ノウハウを提供することで「最適・高品質・高付加価値」を実現し、他社との差別化を図っている。中期経営計画では22.3期の売上高2,200億円、営業利益210億円、営業利益率9.5%を目指す。19.3期のマーケット別売上高構成比はエンタープライズ（民間企業）29%、通信事業者20%、パブリック（官公庁・地方自治体）35%、パートナー事業16%。



通期会社計画の達成に期待

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が360億円、前年同期比8%増、営業利益が21億円、同39%増。受注高は499億円、同12%減と、パブリックでの大型案件（約120億円）の剥落で減少したが、会社計画は上回った。エンタープライズ、パブリックともにセキュリティ対策やクラウド基盤の構築が好調で業績をけん引した。営業利益率は5.8%、同1.3ポイント改善。利益率の高い統合サービス事業の拡大や生産性改善が寄与した。

20.3期の通期会社計画は売上高が1,875億円、前期比3%増、営業利益が150億円、同15%増。足元では達成可能な水準で、会社計画は期初公表値から変更はない。クラウド基盤サービスやセキュリティ対策に加え、中期計画で注力市場と定めた「ヘルスケア」、「教育」、「スマートファクトリー」ビジネスが順調に推移している。ICT基盤全体を支援する統合サービス事業比率が増加していることに加え、売り切りからサブスクリプションビジネスへの転換も進んでおり、利益率の改善が見込めよう。

[株価動向・投資判断]

業績の順調な推移が材料視され株価は上昇した。今後もクラウド活用に最適なシステム構築を得意とする当社への需要は拡大が予想され、持続的な成長が期待できよう。

<7518 ネットワン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	161,107 (2)	8,241 (43)	8,418 (48)	5,682 (49)	67.2	30.00
19.3	181,935 (13)	13,012 (58)	13,258 (57)	8,913 (57)	105.3	記37.00
20.3 予	187,500 (3)	15,000 (15)	15,000 (13)	10,200 (14)	120.4	42.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2019/7/29)	3,015 円
年初来高値 (高値日)	3,295 円 (19/6/20)
同 安値 (安値日)	1,804 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	25.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	782.4 円
P B R	3.85 倍
予想配当利回り	1.39 %
(1株当たり配当金年42.00円)	
R O E (19.3)	14.0 %
発行済み株式数	8,600 万株